

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	0
施設名	にこ森保育園
施設所在地	青梅市新町4-14-16
法人名	株式会社モアスマイルプロジェクト

1. 活動のテーマ

<テーマ>

【①テーマを決める】

自然（植物）

四季を感じられる当園の園庭の特徴を活かし、「植物」をテーマとして設定する。植物は、子どもたちが日常生活でよく見る身近なものであり、日頃から園庭に限らず、散歩や遠足などで、子どもたちが興味を持っている姿が見られることから園庭や園外で四季を感じたり、植物の育ちや、名前、特徴などについて、子どもたちの興味関心をさらに深めるため。

<テーマの設定理由>

昨年度、園庭で育てている「梅」を使って、梅ジュースに挑戦したが、上手に作れず、今年度もチャレンジしようと、子どもたちは楽しみにしていたが、「梅」が不作だったため、形が似ている「すもも」でジュースを作ったら、どうなるか？を試してみることにした。

また、乳児クラスでは、昨年度「ブルーベリージャム」を作り、今年も楽しみにしていたが、不作だったため、「やまもも」でジャムは作れるか？どんな味になるか？に挑戦することにした。

2. 活動スケジュール

令和6年5月～6月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

1. 砂糖、へら、なべ、IH機器、瓶
2. 折り紙、黒画用紙
3. 植物がたくさん見られるような場所設定
4. 移動用の車（自社が保有する山に行って活動するため）

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

昨年度、園庭で育てている「梅」を使って、梅ジュースに挑戦したが、上手に作れず、今年度もチャレンジしようと、子どもたちは楽しみにしていたが、「梅」が不作だったため、形が似ている「すもも」でジュースを作ったら、どうなるか？を試してみることにした。

また、乳児クラスでは、昨年度「ブルーベリージャム」を作り、今年も楽しみにしていたが、不作だったため、「やまもも」でジャムは作れるか？どんな味になるか？に挑戦することにした。すももを自分で収穫し食べてみることですももの味を知る。ジュースにしたらどうなるかを考えきれいに洗ったすももと氷砂糖を順番に手袋をしながら隙間なく詰め込んでいき観察を行う。氷砂糖の解け具合を観察しながら色の変化を楽しみ、ある程度氷砂糖が溶け切った所でできたシロップを水で薄め飲む。梅に比べ甘みが強く色もピンク色できれいでおいしいジュースが出来た。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

園庭で育てている様々な植物を見て、毎年なるブルーベリーややまもも、梅など子どもたちは楽しみにしている様子で、「今年はまだ梅はできないのかな？」「これって食べられるのかな？」など保育士に声をかけていた。特にやまももは、今まで収穫したことがなかったので、食べられることを知らなかったことを再発見し、その場で「食べられるかな？」と保育士が食べてみたら、子どもたちも「食べたい！」と大騒ぎをして、実際収穫することや食べてみての感想など一緒に楽しむようにした。また、ジャム作りやジュース作りでは、子どもたちの意見を聞きながら、子どもたちの味覚や嗅覚、視覚などの五感を育むような関わりをした。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちは、園庭にある植物をよく見ている、大切にしていることを改めて知ることが出来た。子どもたちがより一層楽しめるように、子どもたちが育てたいものを育てることも良いと感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	0
施設名	にこ森保育園
施設所在地	青梅市新町4-14-16
法人名	株式会社モアスマイルプロジェクト

1. 活動のテーマ

<テーマ>

【①テーマを決める】

自然（生殖体）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

四季を感じられる園庭には、様々な虫がやってくる。なぜ飛べる虫と飛べない虫がいるのか？なぜ土の中で生活する虫がいるのか？など子どもたちの虫への関心は無限大。その虫を通して生態系への関心を深めるため。また、木々も生殖体の一つと考え、いろいろな木や葉を使って自分の好きなものを作ったり、匂いを嗅いでみたり、さわり心地の違いを感じたりすることで、五感を育む。

2. 活動スケジュール

令和6年5月～令和7年3月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【②問いを考える】

「虫はなんで飛べるの?」「虫にはおうちがないの?」などという子どもたちから発せられた疑問を問いとして設定する。

【③環境をデザインする】

1. 虫かご、網、カップ
2. 自社が保有している山へ行くための車

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

実際に山の中を探索し、土を掘り起こしたり木や落ち葉をどかして虫探しを行う。虫を見つけたらそっと捕まえるが危険な虫もいるためよく観察し、図鑑などで調べたり素手で触らないようにしながら虫を捕まえる。虫のお家がない為虫かごに住みやすいように葉っぱの布団や木の遊び場を作って虫のお家を作成する。地面が膨らんでいるところを見つけ掘り起こし何が済んでいる穴か考え何で土が盛り上がっているのかをみんなで話し合いながら観察して楽しむ。自然物を集め釘やボンドを使ってそれぞれ好きな形を作って楽しむ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

落ち葉の下にじっとしていた虫を見つけ観察していると突然虫が動き出し急いで土の中にもぐった。「どうして土にもぐるのかな」「恥ずかしいのかな?捕まりたくないんだよ」と言った声が出た。寒い季節だったので「もしかしたら寒かったのかもしれないよ」と保育者が伝えると「そうかも!!早くお布団かけてあげなきゃ」と柔らかい落ち葉をかけていた。土が盛り上がっているところを見つけるとなんだと不思議そうに見ていた。保育者がモグラの巣かもと話すと盛り上がっている土の道をたどって穴を発見し木の棒を突っ込んで「モグラさんいますか〜」と声を掛けていた。「モグラさんが通るところの土と通らないところの土を踏んで硬さを確かめてみよう」と伝えると柔らかいところと硬いところを見つけ「モグラは土を掘るから柔らかいんだ」と考えてみんなに伝えている子がいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

山も中で子どもたちが自分からいろいろなところを探索しに行きながら、とげが出ている枝は危ないとか、動物のフンを見つけて何の動物か考えたり自然の中で五感を研ぎ澄まし発見している場面が多く見られた。自然物に触れていくことでどうして土が柔らかいのか、木で制作をすることで柔らかい木もあれば硬い木もあり実際釘を使ってくっつけたり、のこぎりを使って木を切ることで素材の質感などを実際に感じどうしてだろうと考えることができた。言葉や写真で見せるのではなく自分の目で見てそのものに触れる事での発見が多いことを実感できた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	0
施設名	にこ森保育園
施設所在地	青梅市新町4-14-16
法人名	株式会社モアスマイルプロジェクト

1. 活動のテーマ

<テーマ>

【①テーマを決める】

自然（水）

<テーマの設定理由>

プール活動が始まり、子どもたちから「なんで〇〇君は浮くことができるの?」「なんで、××は浮くのに、△△は沈んでしまうの?」という子どもの疑問から、「水」をテーマとして設定する。子どもたちが疑問に思ったことをさらに探求できるようにするため。水に浮くものや沈むものなどを試したり、水の動きを作るためにプールの中でどんな動きをみんなでしたらいいか実際に試してみる。また、人工で作った水の流れだけでなく、実際に川などに行き、水の流れや、浮くもの沈むものを実験する。

2. 活動スケジュール

令和6年7月から8月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

1. プール、ビート版、様々な玩具
2. ペットボトルや絵具
3. 竹船や木船（子どもたちが作る）
4. プールだけでなく、川などへ行って水の流れをみるための移動用の車

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

幼児（3～5歳児）は水の動きを作るためにプールの中でどんな動きをみんなでしたらいいか実際に試して行く。縦の動きを個々にしてもあまり水に変化はないがみんなで掛け声を合わせて同じ方向に進むと大きな波が出来ることを知り楽しんだ。流れるプールを作るためにはどれくらい歩いて回るといいのか途中逆に回ったら流れや水の抵抗がどれくらいあるのかを体験しながら感じる。身近にあるものを水の上に乗せ、水に浮くもの、溶けるもの、沈むものを実験して調査しようとしてそうなるのかを考えた。

乳児（1～2歳児）溶けたものが下に沈んだがどうしてそうなるのかを話し合いまた混ぜたらどうなるのかなど色水を作って楽しみながら実験した。色水遊びに興味があったため、それを活用して子どもたちの玩具作りを一緒に行った。キラキラの色が実折り紙を小さく切ったものやフェルトの玉を用意し、子どもたちに入れてもらった。絵の具をペットボトルの蓋部分に少量入れ、振ることで水が色着く様子を楽しんだ。食紅で製氷機に色水氷を作り、氷お絵描きををした。氷の冷たさや溶けて水になる時などの感触を楽しむと共に、溶けだした時に紙に着く色や、混ざりあった色の様子などを楽しんだ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

プール活動では、子どもたちの不思議を体験に変えられるよう、「なんでだろうね？」という問いかけを大切に、子どもたちから進んでやってみようという気持ちになるように、「こうしたらどうなるのか？」という疑問を探究心に変えられるような声かけをした。子どもたちは、自分たちで発見することが楽しかった様子で、次から次へと考えてはやってみようの気持ちが増えていく様子だった。乳児の色水作りでは、透明な水が少しずつ色が変わっていく様子を楽しんでいた。どうしたら、薄い色ができるのか？濃い色ができるのか？など、視覚で見せることで、子どもたちが薄くしたいのか？濃くしたいのか？を一緒に考えたりした。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちは、成長するごとに様々なことを疑問に思うようになり、その答えを聞こうとする。教えることは簡単だが、自分でその答えを見つけること、答えは一つではないことを発見することが大切であることを伝えていきた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	0
施設名	にこ森保育園
施設所在地	青梅市新町4-14-16
法人名	株式会社モアスマイルプロジェクト

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然（空）

<テーマの設定理由>

園舎で寝転んでいる時に、空の色や雲の形や流れなど、毎日違うことが気になった子どもたちの関心を深めるため。星や空に興味を持ってもらう為に自分の生まれ月の星座を知ったり、季節限定で見える星座を学んだ。星に興味を持ったところで自分なりの星座を作り一人用プラネタリウムから最終的にはみんなで見れる大きなプラネタリウムを作り星を楽しんだ。

2. 活動スケジュール

令和6年7月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【環境をデザインする】

図鑑、段ボール、黒画用紙、その他、プラネタリウムを作るための材料、懐中電灯など

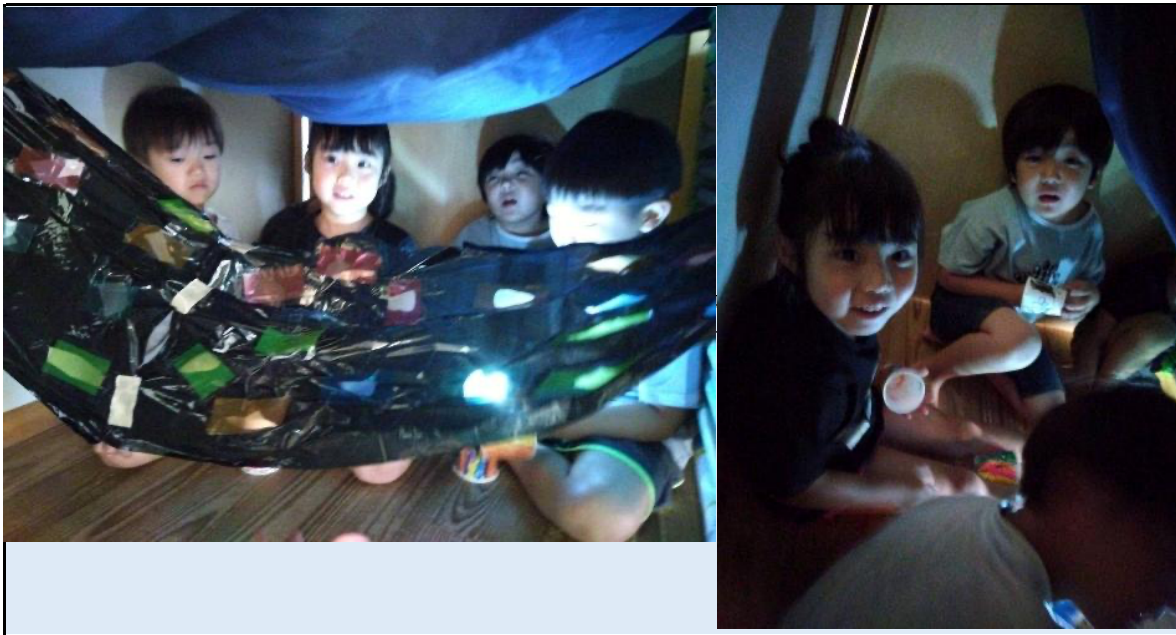
4. 探究活動の実践

<活動の内容>

自分の星座を図鑑や本で調べ星座の形や名前を知り星座の塗り絵をする。絵具とストローを使って吹き絵を行い自分なりの星空を作る。紙コップと針を使って好きな形に穴をあけ好きな星座を作る。コップの下に電気を入れ暗いところで壁に穴から光が移るようにし自分だけのプラネタリウムを作って楽しむ。黒のビニール袋に穴をあけカラーセロファンを貼ったり、みんなで見れるプラネタリウムの作り方を考え、材料ややり方話し合いをしながらいろいろ試し準備を行う。物干しやブルーシートなどを使ってみんなが寝転がって見れるような空間作りを行い自分たちで作った紙コップのプラネタリウムや黒のビニールに穴を開けた物を下から照らし壁に写しどれくらい暗くしたらもっと見やすいか照らし方などの工夫を自分たちで考え行いよく見えるようになって完成した個室にみんなが寝転がりひとりひとりの作った星を見せ合ったり、星の投影機を使いプラネタリウムを楽しんだ。実際の星も暗ければ暗いほど見やすいことを学んだ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

誕生表を張り出したことで、子どもたちは、「星座」ということを知り、夜空に見える星を見ては、自分の星座を探そうとしていた。実際には見ることが出来ないため、見るにはどうしたら良いか？と一緒に考え、プラネタリウムを作ることになった。保育士は、どうしたら良いかな？という声かけをどんどん与えることで、自分たちで本で見たり、探したり、考えたりと自分たちで最初から最後まで行うことで、発見が生まれた。



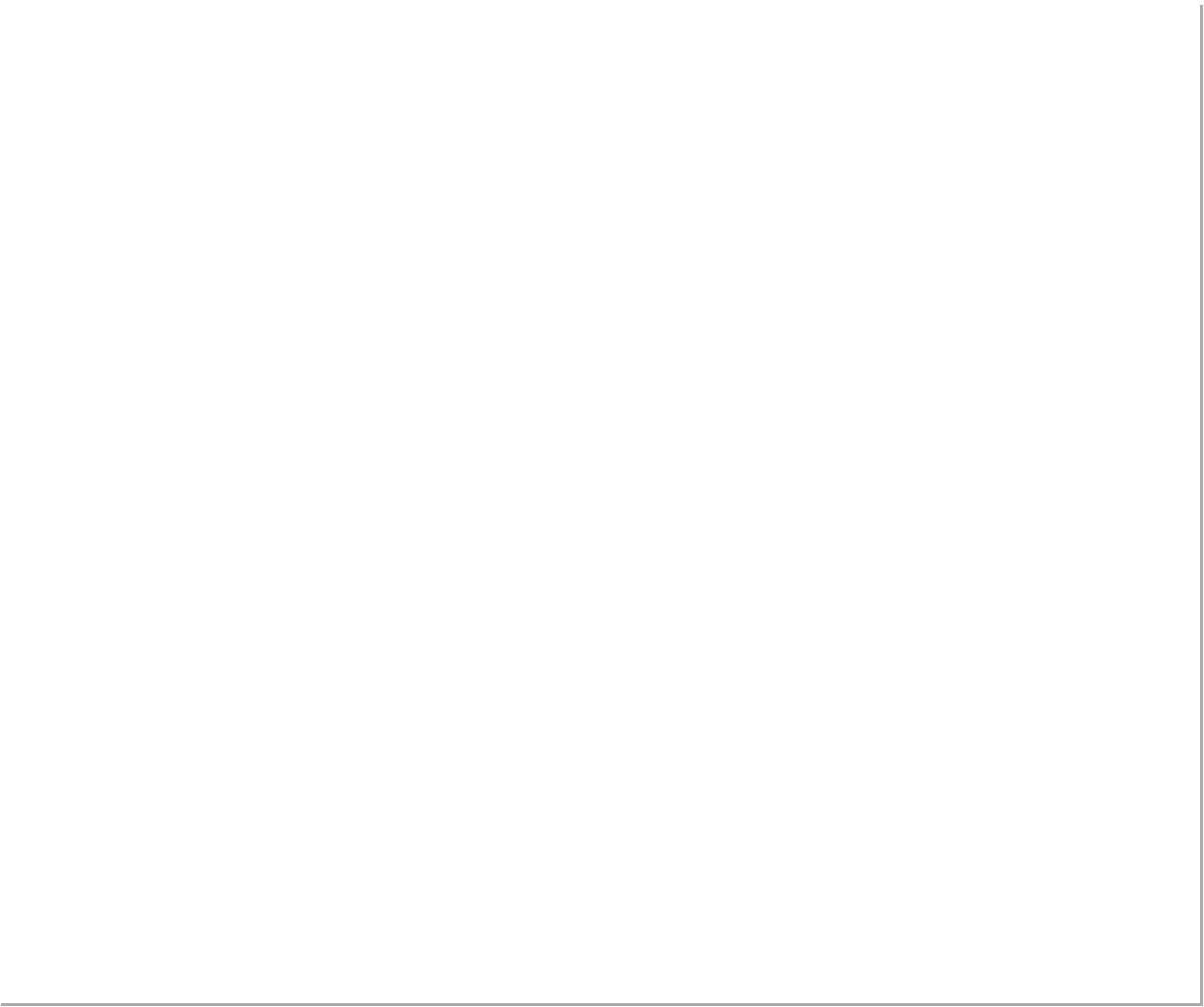
5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちが自分たちでプラネタリウム作りという目標を持って最後までやり遂げることで、達成感を持つことが出来たこと、おともだちと一緒に考えながら活動を進めることで、仲間意識をもつことが出来た。

- 活動報告書を作成して園のホームページ
- 活動報告書は任意の様式で作成していた
下記の内容を盛り込んでください。
 - ・活動のテーマ
 - ・テーマの設定理由
 - ・活動スケジュール
 - ・活動のために準備した素材や道具、環境
 - ・活動の内容
 - ・活動中の子供の姿・声、子供同士や保育
 - ・活動の様子が分かる写真（2枚以上）
 - ・振り返りによって得た先生の気づき





2等で公表してください。
:だいても構いませんが、

筆の設定

署名との関わり